



## 情報興味空間の構造の分析

その他のタイトル	A qualitative analysis of the seeked information structure
著者	西迫 成一郎, 森上 幸夫, 桑原 尚史
雑誌名	情報研究 : 関西大学総合情報学部紀要
巻	3
ページ	43-51
発行年	1996-01-22
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00020364">http://hdl.handle.net/10112/00020364</a>

# 情報興味空間の構造の分析

西迫成一郎      森上幸夫      桑原尚史

A qualitative analysis of the seeked information structure

Seiichiro NISHISAKO\*

Yukio MORIKAMI\*

Takashi KUWABARA\*\*

## Abstract

This paper is the first of a series in which the result of a study of seeking information behavior. The purpose of this study is to determine the seeked information structure. In the first investigation with 135 college students, 86 items concerning seeked information were obtained. In the second investigation with 274 college students, factor analysis for 86 items were carried out. The result may be taken to indicate that seeked information structure consists of the information about present self, the information about future self, the information about others, the information about daily life, the information about society, and the information about mystical phenomenon.

---

\*Faculty of Sociology, Kansai University    \*\*Faculty of Informatics, Kansai University

今井(1970)により、情報化社会が「一定の単位時間内で情報の収集、伝達およびその処理が社会的に増え、増大した情報量が社会の人々の行動を決定するだけの価値を持つようになった社会」と定義され、日本社会が情報化社会と呼ばれるようになって久しい。ところが、近年、情報通信技術の発達に伴い、現代日本の情報環境は急激な変化の兆しを呈している。換言すれば、日本社会の情報化は、さらなる進展の時期を迎えているといえよう。この進展は、われわれにより多くの便利さを供給するとともに、社会の効率性および経済性をさらに高めていくと予想される。しかし、一方で、それがわれわれにさらなる不安とストレスをもたらす可能性も否定できない。既に、現在においても、急速な情報化社会への移行に適應できない人々の適應障害が問題視され（早石, 1991）、増加する情報そのものについても、私たちが生きていくためにほんとうに役立つ情報が増えているのかといった疑問が投げかけられている（前田, 1992）。これは、情報化が必ずしも良き効果のみをもたらすのではないことを指摘すると同時に、もし、さらなる情報化が進むのであれば、そこに人間の心理を考慮に入れていく必要があることを示唆するものである。したがって、心理学においても、いま、人間と情報との関わりをとらえなおすとともに、人間がいかなる情報を本当に必要としているのかという一見自明とも思える問題を考えるときにきているといえよう。

もちろん、この人間が情報といかに関わっているのかという問題は、これまでも、心理学の多くの領域において研究の俎上にあげられてきた。いや、むしろ、人間と情報との関わりが、心理学のおおよその領域の主題であったといった見方をすることさえできる。たとえば、刺激をいかに情報へと変換するかが感覚・知覚心理学の主題であり、情報を受け取ることにより行動がいかに変容していくかが学習心理学の主題であり、そして、いかなる情報がいかなる感情を喚起させるのが感情心理学の主題であった。なかでも、人間が情報をいかに処理するのかという問題を主題とする認知心理学と、社会的行為が自己および他者あるいは社会の情報を受け取ることによっていかに変化するのかといった問題を主題としてきた社会心理学は、人間と情報との関わりを最も包括的に扱ってきた領域といえる。

しかしながら、いずれの領域においても、人間がいかなる情報を求めているのか、あるいは人間がいかなる情報を必要としているのかという問題は取り上げられてこなかった。これは、心理学の根底に刺激と反応の結びつきを解明しようとする行動主義あるいは新行動主義の考え方が流れていること、そして、その結果として、心理学が人間を囚らずも刺激を受けとめる受動的な存在とみなしたきたことに起因していると考えることができよう。たとえば、認知心理学においても、一部の研究者を除き（e.g. Neisser, 1976）、人間を情報を受けとめる存在とみなし、人間が受けとめた情報をいかに理解し、それをいかに知識とし、その知識をいかに運用しているのかという問題に主たる関心が払われてきた。また、社会心理学の領域においても、人がいかなる説得的コミュニケーションを受けると態度を変化させるのか、他者に関する情報を受け取ることにより、その他者のパーソナリティや能力をいかに推論するかといった情報に関わる問題が数多くとりあげられてきたが、そこでは情報を受けとめることにより人間が対人

的行為をいかに変化させるのかという点に重点が置かれてきた。もっとも、これは、先に指摘した刺激-反応アプローチが採られてきたことに、認知心理学が受動的な存在であるコンピュータをアナロジーの対象に用いて発展してきた経緯、社会心理学が対人的行為の解明を中心的な課題としてきたこれまでの動向を考え併せれば当然の帰結といえよう。

しかし、Cohen, Stotland, & Wolfe (1955) が指摘するように、人間は情報を積極的に求める存在である。すなわち、われわれは、接触可能な無限なる情報のなかより、目的あるいは状況に応じて、必要な情報を選択し、その選択した情報を処理しているのである (e.g. 桑原, 1985; Stanger & Ford, 1992)。すると、ある一人の人間がいかなる情報を処理するのかは、その人間がいかなる情報を求めているかに強く依存しているといえよう。もちろん、われわれは求めている情報のみを受け取るわけではない。情報を意図せず受け取る場合も多い。しかし、その際にもその情報への動機がその情報の処理のあり方を規定しよう。事実、Petty & Cacioppo (1986a, 1986b) は、個人の情報への動機づけが、その情報をいかに処理するのかを規定することをみいだしている。すなわち、人間がいかなる情報を求めているかは、いかなる情報を選択するかを方向づけるのは無論のこと、さらに選択した情報をいかに処理するのかをも規定するのである。したがって、人がいかなる情報を求めているのかという問題は、人間と情報との関わりを考えるうえにおいて、きわめて重要な問題と位置づけることができよう。

そこで、本研究においては、まず、人間がいかなる情報を求めているのかという問題をとりあげ、個々の人間が求めている情報の集合を情報興味空間と呼び、その構造を明らかにすることを目的とする。

## 調 査 1

まず、調査1においては、大学生を調査対象とし、人がいかなる情報を求めているのかを、自由記述により収集し、情報興味空間の全体像を把握することを目的とする。

### 方 法

**被調査者：**男子69名、女子66名の計135名の大学生を被調査者とした。

**手続：**“今、知りたいことを書くように”との教示のもと、被調査者に知りたい情報を20種類自由記述することを求めた。

**実施時期：**調査は、1995年10月に実施した。

### 結 果 及 び 考 察

調査の結果、787種類の情報に関するプロトコルが得られた。なお、総プロトコル数は1994であった。また、被調査者ひとりあたりの平均反応プロトコル数は、14.8であり、標準偏差は5.51であった。

以下、これらのプロトコルより、いかなる情報が求められているのかについてみると、被調査者は、まず、日常生活に関連する情報、政治、経済等の社会に関連した情報、そして他者の思考、感情といった他者に関する情報を求めているといえる。これらは、自己をとりまく環境を意味づける情報といえよう。次に、被調査者が求めている情報として、自己の成績、適性、自己に関する評価といった自己に関する情報あげることができる。これは、環境の中に自己を位置づける情報といえよう。また、その他にも、プロトコルより、災害等の危機を回避するための情報、直面している問題を解決するために必要な情報、技術や手段といった方法論的な情報、スポーツ、音楽等に代表される趣味および娯楽に関連した情報、そして利益に関わる情報が求められていることがわかる。これらの情報は、苦難あるいは不利益を回避すると同時により快適にかつ幸福に生きていく為に必要な情報と括ることができる。

ここから、拙速を恐れずに解釈すれば、情報興味空間は、環境を意味づける情報、自己を意味づける情報、幸福に生きるための情報から構成されるといえる。しかし、この解釈は当然主観の域をでるものではない。そこで、調査2においては、この調査1で得られたプロトコルを因子分析の手法を用いて分析することにより、その構造を明らかにすることを目的とする。

## 調 査 2

調査2においては、調査1で得られたのプロトコルを因子分析の手法を用いて分析することにより、情報興味空間の構造を明らかにすることを目的とする。

### 方 法

**被調査者：**男子.139名、女子 135名の計.274名の大学生を被調査者として用いた。

**材料の作成：**まず、調査1において得られた.787のプロトコルより、複数の被調査者より記述があったものを選択し、そこからたとえば「学園祭について」といった情報のように、その情報が求められる期間がひじょうに限られるプロトコルを除いた。そして、ひとつの情報として統合可能なプロトコルはひとつの項目にまとめた。その結果、Table 1 に示すような、86項目の情報に関する項目が得られた。

**手続：**Table 1 の86の情報に関する項目を、質問紙にて被調査者に呈示し、それぞれの項目に記述してある情報をどの程度知りたいと思うかを、「まったく知りたくない」から「非常に知りたい」までの7段階で評定することを求めた。

**実施時期：**調査は、1995年11月に実施した。

Table 1 調査2の質問項目

項目番号	項目内容	項目番号	項目内容
0 1	自分の能力, 適性について	4 4	日本の将来について
0 2	自分の性格について	4 5	今後の経済について
0 3	自分の体力および健康状態について	4 6	ドラマ, 小説の続き, 結末について
0 4	自分の運動能力について	4 7	これからの天気について
0 5	自分の感情, 考えについて	4 8	今日のテレビ番組について
0 6	自分に似合う服装, 髪型について	4 9	時間の上手な使い方について
0 7	自分の将来について	5 0	麻雀, 将棋等ゲームのやり方について
0 8	自分の寿命について	5 1	お金を貯める方法
0 9	今度取得できる単位数	5 2	ギャンブルの勝ち方
1 0	4年間で卒業できるのか	5 3	やせる方法
1 1	自分の就職に関連することについて	5 4	肌, 髪等の手入れの仕方
1 2	結婚相手について	5 5	健康管理の方法
1 3	今晚の夕食について	5 6	早起きする方法
1 4	休講に関連することについて	5 7	免許, 資格の取り方
1 5	なぜ人間関係がうまくいかないのか	5 8	車, バイクを上手に運転する方法
1 6	自分をコントロールする方法	5 9	スポーツがうまくなる方法
1 7	精神的に大人になる方法	6 0	楽器の弾き方
1 8	理想的な自分になれる方法	6 1	歌がうまくなる方法
1 9	幸せになる方法	6 2	レポートの書き方
2 0	頭が良くなる方法	6 3	単位および良い成績の取り方
2 1	体力をつける方法	6 4	語学を修得する方法
2 2	他者の収入	6 5	他者の行動をコントロールする方法
2 3	他者の年齢	6 6	話し方がうまくなる方法
2 4	他者の過去あるいは秘密	6 7	出世する方法
2 5	他者の気持ちあるいは考え	6 8	人付き合いの仕方
2 6	他者の近況について	6 9	恋人あるいは結婚相手のみつけ方
2 7	他者の今後の行動	7 0	車, バイクに関することについて
2 8	他者の将来について	7 1	コンピュータに関連することについて
2 9	他者が自分をどう思っているか	7 2	マナーについて
3 0	条件のいいバイト先	7 3	料理に関することについて
3 1	観光地, プレिसポット, タウン情報について	7 4	人間の身体のことについて
3 2	地理, 道路について	7 5	人間の進化について
3 3	電車, バスの時刻	7 6	歴史・文化について
3 4	社会情勢について	7 7	宇宙に関することについて
3 5	政治に関連することについて	7 8	動物のことについて
3 6	経済に関連することについて	7 9	科学的知識および科学的技術について
3 7	大学, サークル等所属する集団のことについて	8 0	今後起きる地震などの天災の場所と日時
3 8	先生の成績のつけ方について	8 1	死後の世界および霊の存在について
3 9	ある商品の発売日	8 2	超能力に関連することについて
4 0	あるものの値段について	8 3	宇宙人, UFOの存在
4 1	話題になっている事件の真相	8 4	1999年地球は滅びるか
4 2	芸術, 芸能, スポーツのことについて	8 5	ギャンブルの当たり券の番号
4 3	世界の未来について	8 6	試験あるいは宿題の答え

## 結果及び考察

86項目について主因子解による因子分析を行い、情報興味空間の構成要素を把握するために、より多くの解釈可能な因子を抽出することを試みた。その結果、6つの因子を抽出した。そして、その6因子のいずれにも.400未満でしか負荷しない21項目を除外し、さらに、残された65項目について因子分析を行った。バリマックス回転後の因子負荷量を Table 2に示す。

Table 2 情報興味空間に対する因子分析の結果 (バリマックス回転後)

因子名	項目番号	項目内容	FACTOR1	FACTOR2	FACTOR3	FACTOR4	FACTOR5	FACTOR6
生活関連因子	39	ある商品の発売日	<b>.627</b>	.066	.190	.015	-.025	.215
	40	あるものの値段について	<b>.613</b>	.111	.194	.025	.055	.179
	33	電車、バスの時刻	<b>.611</b>	.119	.172	.094	-.022	.038
	32	地理、道路について	<b>.584</b>	.161	.229	.069	-.232	-.015
	31	観光地、プレイスポット、タウン情報について	<b>.572</b>	.146	-.039	.338	.036	.013
	48	今日のテレビ番組について	<b>.543</b>	-.143	.155	.150	.105	.167
	14	休講に関することについて	<b>.543</b>	.161	-.042	.068	.252	-.102
	52	ギャンブルの勝ちかた	<b>.539</b>	-.008	.062	.096	.271	.155
	38	先生の成績のつけ方について	<b>.533</b>	.154	.100	.172	.203	.080
	57	免許、資格の取り方	<b>.528</b>	.249	.123	.225	.265	-.093
	47	これからの天気について	<b>.514</b>	.067	.079	-.000	-.068	.029
	42	芸術、芸能、スポーツのことについて	<b>.499</b>	.107	.109	.180	.086	.150
	50	麻雀、将棋などゲームのやり方について	<b>.470</b>	.084	.285	.088	.080	.110
	85	ギャンブルの当たり券の番号	<b>.462</b>	-.006	.014	.119	.312	.081
	58	車、バイクを上手に運転する方法	<b>.460</b>	.232	.141	.094	.125	-.050
	59	スポーツがうまくなる方法	<b>.454</b>	.374	.015	.162	.213	.038
	37	大学、サークル等所属する集団のことについて	<b>.451</b>	.283	.063	.242	.021	-.089
	61	歌がうまくなる方法	<b>.450</b>	.287	.001	.171	.231	.114
	41	話題になっている事件の真相	<b>.446</b>	.106	.193	.323	.181	.133
	86	試験あるいは宿題の答え	<b>.445</b>	.041	-.113	.181	.413	-.007
	51	お金を貯める方法	<b>.440</b>	.201	.029	.121	.356	-.075
30	条件のいいバイト先	<b>.438</b>	.116	.028	.192	.179	.020	
62	レポートの書き方	<b>.359</b>	.336	.261	.048	.200	-.050	
現在自己関連因子	4	自分の運動能力について	.287	<b>.694</b>	.128	-.015	-.023	.126
	5	自分の感情、考えについて	.060	<b>.665</b>	.151	.233	.130	.134
	3	自分の体力および健康状態について	.236	<b>.636</b>	.147	-.019	-.019	.089
	2	自分の性格について	.075	<b>.626</b>	.168	.281	.180	.035
	16	自分をコントロールする方法	.098	<b>.581</b>	.204	.089	.253	-.052
	55	健康管理の方法	.303	<b>.577</b>	.135	.109	.157	.008
	17	精神的に大人になる方法	.035	<b>.552</b>	.165	.166	.338	-.033
	1	自分の能力、適性について	.104	<b>.521</b>	.154	.188	.114	.115
	18	理想的な自分になれる方法	.086	.504	<b>.023</b>	.284	.418	.027
	21	体力をつける方法	.363	.443	<b>.236</b>	.063	.235	.129

社会 関 連 因 子	34	社会情勢について	.233	.155	<b>.759</b>	.128	-.046	-.130
	36	経済に関連することについて	.161	.127	<b>.737</b>	.112	-.011	-.114
	45	今後の経済について	.118	.190	<b>.710</b>	.119	.221	.084
	35	政治に関連することについて	.175	.171	<b>.697</b>	.184	-.061	-.087
	76	歴史・文化について	.181	.160	<b>.563</b>	-.070	-.094	.219
	44	日本の将来について	.066	.192	<b>.493</b>	.203	.370	.222
	79	科学的知識および科学的技術について	.096	.168	<b>.482</b>	-.032	-.001	.308
	77	宇宙に関することについて	.083	.088	<b>.453</b>	.063	.026	.433
	43	世界の未来について	.102	.145	<b>.445</b>	.188	.333	.336
他 者 関 連 因 子	26	他者の近況について	.205	.222	.127	<b>.750</b>	.019	.033
	27	他者の今後の行動	.056	.107	.256	<b>.742</b>	.064	.093
	25	他者の気持ちあるいは考え	.158	.173	-.016	<b>.654</b>	.171	.044
	24	他者の過去あるいは秘密	.164	.008	-.059	<b>.632</b>	.157	.103
	28	他者の将来について	.097	.164	.216	<b>.607</b>	.110	.195
	29	他者が自分をどう思っているか	.241	.253	-.001	<b>.551</b>	.218	-.033
	23	他者の年齢	.216	.088	.075	<b>.492</b>	.122	.041
22	他者の収入	.310	.029	.068	<b>.463</b>	.083	.112	
将 来 自 己 関 連 因 子	19	幸せになる方法	.154	.246	-.012	.234	<b>.612</b>	.049
	20	頭が良くなる方法	.219	.279	.217	.149	<b>.576</b>	.078
	9	今度取得できる単位数	.317	.079	-.020	-.053	<b>.552</b>	.008
	10	4年間で卒業できるのか	.346	.159	.051	-.036	<b>.547</b>	.004
	12	結婚相手について	.046	.065	-.160	.107	<b>.533</b>	.132
	67	出世する方法	.305	.134	.131	.316	<b>.471</b>	.018
	7	自分の将来について	-.046	.173	.048	.174	<b>.445</b>	.093
	63	単位および良い成績の取り方	.377	.216	.125	.107	<b>.414</b>	-.103
8	自分の寿命について	-.066	.020	.076	.081	<b>.395</b>	.268	
神 秘 的 関 連 事 象 因 子	82	超能力に関連することについて	.098	.044	-.005	.102	.056	<b>.841</b>
	81	死後の世界および霊の存在について	.045	.099	-.002	.116	.065	<b>.804</b>
	83	宇宙人、UFOの存在	.055	.032	.080	.104	.063	<b>.776</b>
	84	1999年地球は滅びるか	.162	-.032	.022	.113	.322	<b>.507</b>
	75	人間の進化について	.221	.164	.452	-.068	-.018	<b>.487</b>
74	人間の身体のことについて	.287	.314	.315	.147	.070	<b>.335</b>	
寄 与 率 (%)			11.62	7.72	7.07	6.88	6.72	5.58
累 積 寄 与 率 (%)				19.34	26.41	33.29	40.01	45.59
固 有 値			16.26	4.25	3.72	3.43	2.82	2.16

まず、第1因子をみると、この因子は、消費、交通、大学生活、趣味等日常生活を送っていくうえにおいて必要な情報から構成されているため、これを生活関連因子と解釈した。第2因子には、現在の自己の状態に関する項目が高く負荷しているため、これを現在自己関連因子と名づけた。第3因子には、政治や経済といった社会に関連する項目が高く負荷しているため、

これを社会関連因子と解釈した。第4因子は、すべて他者に関する項目により構成されていることより、これを他者関連因子と解釈した。第5因子には、自己の将来に関連する項目が高く負荷しているため、これを将来自己関連因子と名づけた。第6因子には、未だに科学的に解明されない事象に関する項目が高く負荷していることより、これを神秘的な事象関連因子と名づけた。すなわち、情報興味空間は、現在の自己に関連する情報、将来の自己に関する情報、生活に関連する情報、他者に関連する情報、社会に関連する情報、そして科学的に未知の領域に関する情報より構成されているといえよう。

この結果より、人間がいかなる情報を求めているのかという問題に考察を加えるならば、まず、人間は、環境に関する情報、たとえば、社会、生活、他者に関する情報、また科学的に解明されていない事象に関する情報を求めているといえる。これは、人間が、自己の生きる環境を解釈し、意味づけようとしていることを示している。そして、ここに、生活関連因子、社会関連因子、他者関連因子および神秘的な事象関連因子に将来に関する項目が含まれていることを加味すれば、人間は、環境を意味づけると同時に、さらに、環境がいかに変化するかを予測しようとしているといえる。また、人間は、自己の現在に関わる情報、および自己の将来に関わる情報をも求めている。ここから、人間は環境に自己を位置づけると同時に、その中でより良く生きていこうとしているといえる。すなわち、人間は、自己をも含めた世界観を構築し、その世界がいかに変化するかを予測し、さらにはその変化に対応するために、情報を求めているだと解釈することができよう。

以上、本研究においては、情報興味空間の構造に検討を加えてきたが、本研究が調査対象としたのは大学生のみであり、この結果を直ちに一般化することは慎まねばならない。なぜならば、この情報興味空間は、それぞれの個人を取り巻く環境によって、また個人の志向性によって当然異なってくるものが十分予測されるからである。したがって、情報興味空間の規定因を明らかにしていくことが今後の課題とされよう。

## 要 約

本研究は、個々の人間が求めている情報の集合を情報興味空間と呼び、その構造を明らかにすることを目的とした。そのために、調査1においては、人がいかなる情報を求めているのかを、135名の大学生を調査対象とし、自由記述により収集した。そして、調査2においては、274名の大学生を被調査者として用い、調査1で得られたプロトコルを因子分析の手法を用いて分析した。その結果、情報興味空間は、現在の自己に関連する情報、将来の自己に関する情報、生活に関連する情報、他者に関連する情報、社会に関連する情報、そして科学的に解明されていない事象に関する情報より構成されていることがみいだされた。

## 引用文献

- Cohen, A. R., Stotland, E. & Wolfe, D.M. 1955 An experimental investigation of need for cognition. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 51, 291-294.
- 早石修 1991 高度情報化社会の健康と医療 世界保険通信社
- 今井忍 1970 情報化社会の原価管理 森山書店
- 桑原尚史 1985 文章処理過程に及ぼす目標の効果 心理学研究, Vol.56, 93-98.
- 前田利郎 1992 情報化社会を疑う眼 ぎょうせい
- Neisser, U. 1976 *Cognition and reality: Principles and implications of cognitive psychology*. W. H. Freeman & Company.
- Petty, R.E. & Cacioppo, J.T. 1986a *Communication and persuasion: Central and peripheral routes to attitude change*. New York: Springer-Verlag.
- Petty, R.E. & Cacioppo, J.T. 1986b *The elaboration likelihood model of persuasion*. In L.Berkowitz (Ed.), *Advance in experimental social psychology*(Vol.19). New York:Academic Press. Pp.123-205.
- Stanger, C., & Ford T.E. 1992 *Accuracy and expectancy-confirming processing orientation and the development of stereotypes and prejudice*. In W.Stroebe & M.Hewstone (Ed.), *European review of social psychology*(Vol.3). John Wiley & Sons. Pp.57-89.